

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応

1 経過

- (1) 令和2年4月10日（金）の愛知県緊急事態宣言発令
- (2) 令和2年3月4日（水）から5月31日（日）まで臨時休館
- (3) 5月15日（金）から5月23日（土）まで蔵書点検実施
- (4) 段階ごとの実施内容
 - ア 第1段階：6月2日（火）から部分開館を開始
1人につき10冊4週間の特別貸出を実施、利用時間30分までの時間制限。平日の開館時間2時間制限。（午後5時まで）新刊本の3密対策として不定期に随時提供。
 - イ 第2段階：6月19日（金）から
市外広域地区の利用、レファレンス、リクエスト申込み、ブックスタートパックを該当者にカウンターで提供。
 - ウ 第3段階：7月3日（金）から
新聞、雑誌の閲覧、複写機、閲覧席、いすを半数程度で提供。
 - エ 第4段階：8月7日（金）から
閲覧席及び机の利用不可
 - オ 第5段階：9月1日（火）から
閲覧机及び席数を半減にして利用可、滞在時間を30分から1時間程度へ延ばす。図書消毒機の提供。（9/26）
 - カ 第6段階：10月1日（木）から
開館時間を「平日午後7時まで」へ戻す。貸出冊数及び期間の「10冊4週間」から「5冊2週間」へ戻す。
 - キ 第7段階：11月1日（日）から
2階学習室（会議室、多目的ルーム）の利用再開、AVルームは30人まで、ギャラリーは15人までの制限付きで提供。（参加者の名簿作成、受付常駐等）特別資料閲覧室の利用再開。はなしのひろばを読み聞かせルームとして開放。
 - ク 第8段階：12月10日（木）から
リサイクル本の配布、出入口に検温のためのサーマルカメラ1台設置。
 - ケ 第9段階：令和3年1月5日（火）から
サーマルカメラ2台目を設置。
 - コ 第10段階：令和3年1月19日（火）から
緊急事態宣言発令（1月17日～2月7日）に伴い、平日の開館時間を午後5時までの2時間短縮。1月23日（土）Webからの再貸出回数を制限なしとした。（通常は1回まで）勤務日の職員を分散し、指定休日である

月曜日に正規職員の出勤日を設けた。(2月8日まで)

- サ 第1 1段階：令和3年2月4日(木)から
緊急事態宣言が3月7日(日)まで延長されたことに伴い、3月5日(金)まで平日の閉館時間を2時間短縮。分散出勤体制を3月8日(月)まで延長。
- シ 第1 2段階：令和3年3月9日(火)から
緊急事態宣言解除に伴い、開館時間を「平日午後7時まで」へ戻す。

2 開館時の感染対策

- (1) 出入口での検温
- (2) マスク着用の周知
- (3) 三密を避けるための周知(館内アナウンス及び掲示)
- (4) 2m間隔の利用者導線の確保
- (5) 館内の定期的な換気、カウンターまわりに仕切り設置、消毒での拭き作業実施
- (6) 滞在時間の制限

3 利用できないサービス

- (1) AVルーム及び読書室の利用
- (2) AVブース及びウォータークーラーの利用

4 その他

臨時休館期間が約3か月間の長期だったことを考慮し、6月と8月に閉館して第4火曜日に行う館内整理日を取りやめた。

利用状況

(R2. 4. 1～R3. 1. 31)

【貸出基準】

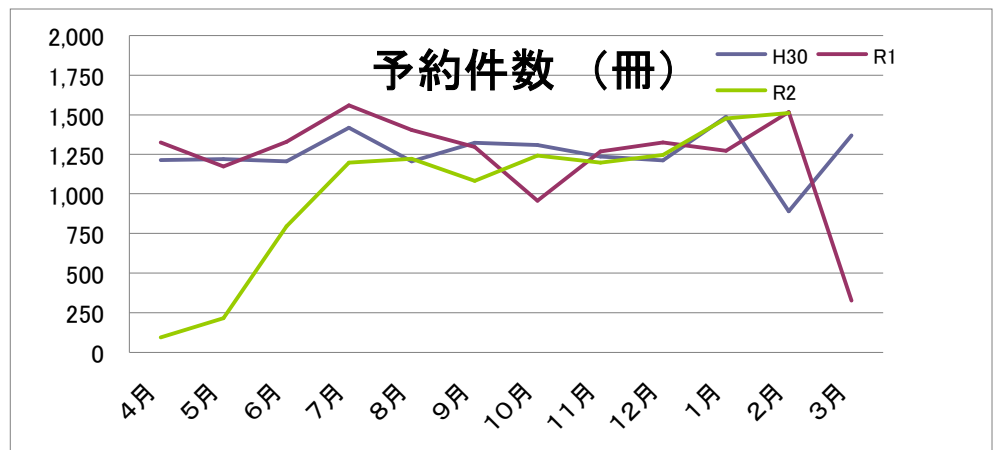
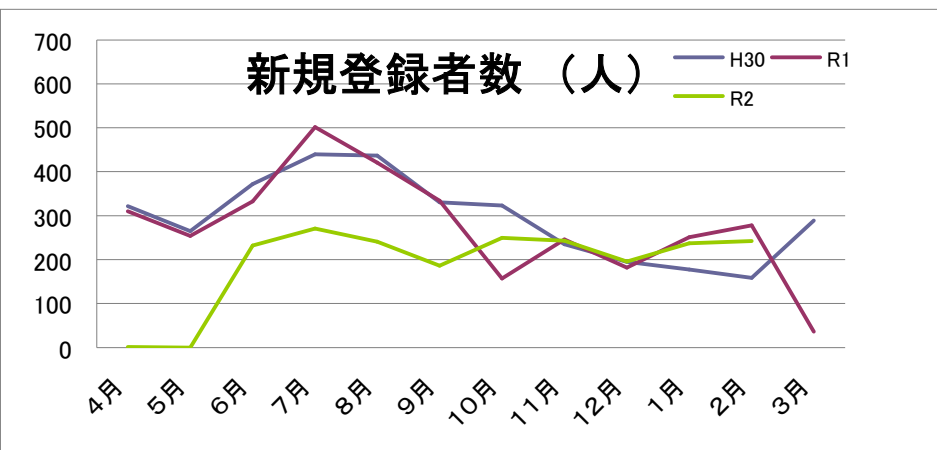
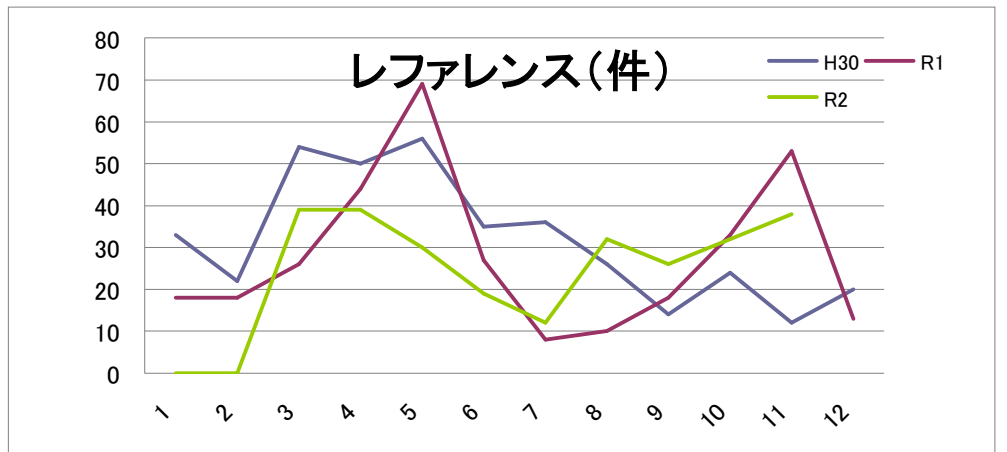
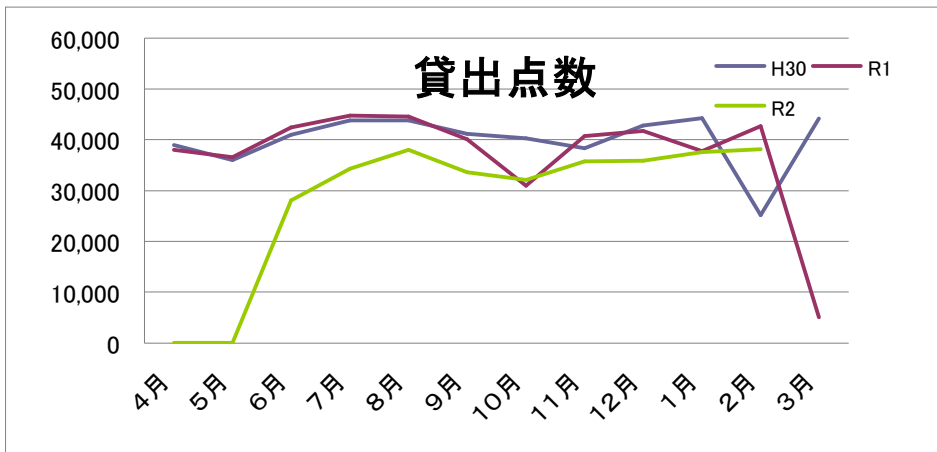
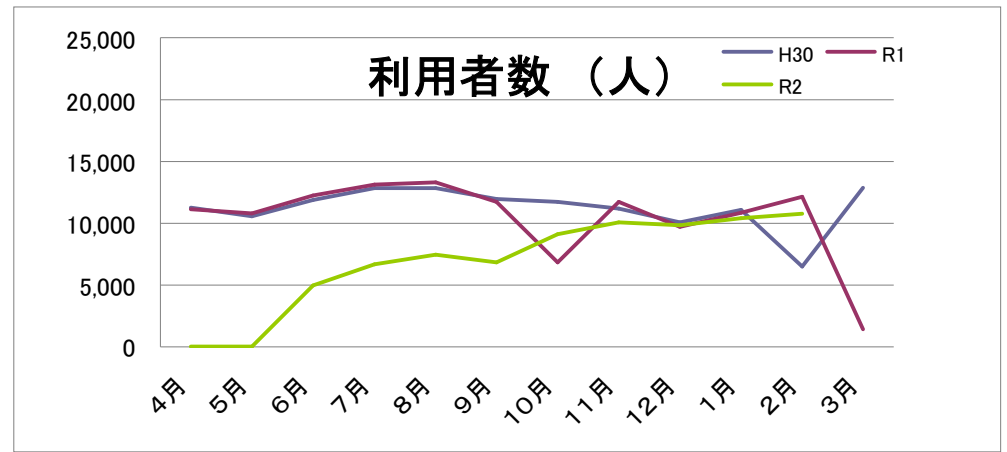
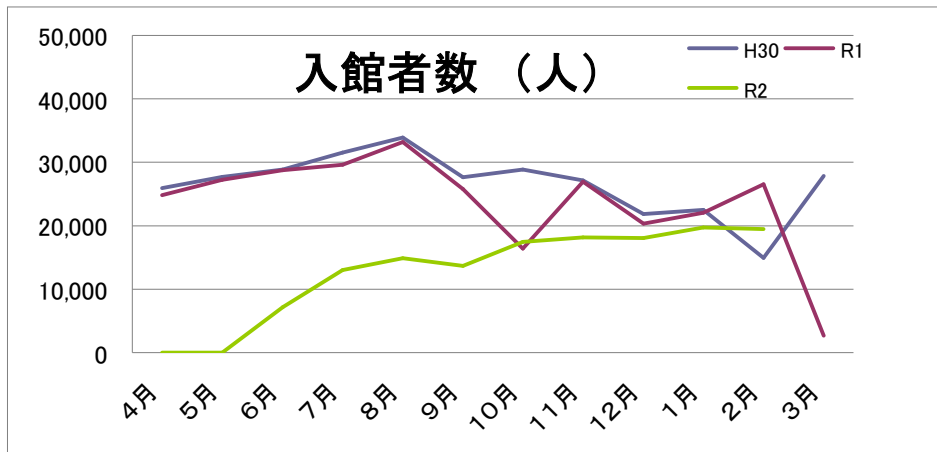
対象：市内在住、在学、在勤、在園者及び名古屋市名東区、名古屋市守山区、瀬戸市、尾張旭市、日進市、豊田市在住者

点数：図書・雑誌・紙芝居 あわせて5点まで2週間 視聴覚資料2点まで1週間

【説明】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5月まで臨時休館とした。
- ・平日午後7時までの開館は10/1より再開し、1/19より再度午後5時までとした(3/5まで)。
- ・AVブース、AVルームの利用は停止している。ギャラリーは11月より利用開始した。
- ・視聴覚資料はICシステム導入作業のため、10月より随時貸出を停止している。
- ・全体的に、昨年度と比較して入館者数が41%減少、利用者数が28%減少となったが、利用率は徐々に回復の傾向にある。
- ・6月から9月まで貸出冊数及び期間を「5冊2週間」から「10冊4週間」に増やしたことにより、貸出点数は16%減少となり、入館者数や利用者数と比べると減少率が少ない。

	R2年度												R1年度		増減率	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計	一日平均	合計		一日平均
開館日数	0	0	24	26	26	25	26	24	23	23	23	220		258		
蔵書購入冊数	1,459	707	534	1,001	748	1,071	942	732	644	784	650	9,272		8,576		
入館者数	0	0	7,181	12,995	14,892	13,694	17,461	18,171	18,052	19,740	19,495	141,681	644	281,675	1,092	-41%
うち5時以降入館者数	0	0	0	0	0	0	863	809	980	471	0	3,123	14	20,321	79	-82%
貸出利用者数	13	21	4,959	6,677	7,453	6,842	9,123	10,068	9,843	10,416	10,786	76,201	346	123,691	479	-28%
貸出点数	図書	25	32	26,313	32,241	35,870	31,560	29,924	33,472	33,974	35,775	295,438	1,343	413,941	1,604	-16%
	視聴覚資料	0	0	242	351	373	380	353	318	83	30	2,155	10	5,048	20	-50%
	紙芝居	0	0	315	347	403	369	268	340	311	278	2,999	14	4,898	19	-28%
	雑誌	0	1	1,168	1,369	1,414	1,324	1,564	1,617	1,474	1,552	13,002	59	16,434	64	-7%
	合計	25	33	28,038	34,308	38,060	33,633	32,109	35,747	35,842	37,635	38,164	313,594	1,425	440,321	1,707
新規登録者数	1	0	232	271	241	186	250	243	196	237	242	2,099	10	3,265	13	-25%
予約件数(個人)	94	216	796	1,196	1,221	1,083	1,241	1,197	1,246	1,476	1,511	11,277	51	14,431	56	-8%
AVブース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,031	4	-100%
AVルーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		121		
ギャラリー	0	0	0	0	0	0	0	8	14	0	0	22		90		
レファレンス	0	0	39	39	30	19	12	32	26	32	38	267	1	324	1	
学習室(17時時点)	0	0	0	0	0	0	0	295	257	278	250	1,080		2,808		



令和2年度 中央図書館 事業進捗状況管理表

(R2. 3/4~5/31 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館)

資料 3

事業名	課題	目標	実施項目	総括	年間スケジュール												備考																										
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																											
1	新規読み聞かせボランティアの育成	読み聞かせの回数を増やしたい	団体を1団体(10人)増やす	<p>1.新規ボランティアを対象とした勉強会(ボランティア同士の読み聞かせ披露と意見交換、おはなし会のプログラム作成など)を月1回実施。</p> <p>2.事務局がフォローしながら、団体を立ち上げる。</p> <p>3.新規ボランティアによる新たなおはなし会を実施する。</p>	<p>【検証】</p> <p>読み聞かせの回数を増やすことを目的とし、昨年度実施した読み聞かせボランティア養成講座の受講者に、今後図書館で読み聞かせボランティアとして活躍してもらうため、おはなし会ボランティア団体を新規で立ち上げ、おはなし会実施を最終目標として、勉強会などを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためボランティアや団体の活動を控えており、勉強会の実施は中止し、今後の実施方法について検討した。</p> <p>【成果】</p> <p>今年度3月頃に勉強会が実施できるように、実施方法や開催時期について検討した。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>感染対策を継続させることを踏まえ、新規ボランティア団体の立ち上げを来年度以降に実現できるようにするため、他団体等の活動状況等の調査などをして、勉強会のよりよい実施方法を検討していく。</p>	<p>勉強会の実施</p> <p>中止</p> <p>新規ボランティア団体立ち上げ</p> <p>延期</p> <p>講師連絡調整</p> <p>勉強会実施方法検討</p> <p>参加者への連絡・調整</p>												第2次子ども読書活動推進計画 基本目標 I-2-(4)																									
						2	本の展示の実施	本の魅力を伝える機会が少ない	<p>テーマ展示本の貸出回転率を1.2とする(展示冊数の1.2倍)</p>	<p>1.図書館員が自身で企画した展示の実施。</p> <p>2.閉架の図書も展示図書に組み込む。</p> <p>3.選定したテーマに基づき本を専用スペースに2ヶ月単位で展示。</p> <p>4.展示本の位置情報の変更入力処理や、人目を引くディスプレイをし、利用者が手に取りやすくする。</p>	<p>【検証】</p> <p>館内5か所(出入口やカウンターの近く、児童書コーナーの中心)に展示図書コーナーを設置し、テーマに基づいた本を展示した。設置期間は2ヶ月程度とし、ロングセラー本も含めてテーマに合った展示に相応しい本を選定した。</p> <p>【成果】</p> <p>12月までに17回の展示を実施し、うち目標を達成したのは13回だった。特に季節などに合わせたテーマの場合は、閉架書庫の普段利用が少ない本であっても貸出が多かった。一般書、児童書どちらも、開架の目立つ場所に展示することで、通常よりも多く貸し出されており、今後も続けていく。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>より利用につながるテーマや展示本を選定するための、選書・情報収集能力、時事など社会的な知識の向上。</p>	<p>テーマ展示本の貸出回転率(%)</p> <p>展示中止 展示リストをホームページに掲載</p> <table border="1"> <tr> <td>①109%</td> <td>①184%</td> <td>①239%</td> <td>①326%</td> <td>①167%</td> </tr> <tr> <td>②197%</td> <td>②75%</td> <td>②546%</td> <td>②576%</td> <td>②208%</td> </tr> <tr> <td>③146%</td> <td>③138%</td> <td>③274%</td> <td>③70%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④-1 266%</td> <td>④43%</td> <td>④44%</td> <td>④183%</td> <td>④462%</td> </tr> <tr> <td>④-2 323%</td> <td>⑤188%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												①109%	①184%	①239%	①326%	①167%	②197%	②75%	②546%	②576%	②208%	③146%	③138%	③274%	③70%		④-1 266%	④43%	④44%	④183%	④462%
①109%	①184%	①239%	①326%	①167%																																							
②197%	②75%	②546%	②576%	②208%																																							
③146%	③138%	③274%	③70%																																								
④-1 266%	④43%	④44%	④183%	④462%																																							
④-2 323%	⑤188%																																										
3	不明化対策事業	不明本が発生している	<p>年間の不明本冊数削減(前年度の蔵書点検時不明本冊数124冊、目標100冊)</p>	<p>1.不明化傾向に基づく本の配置換え(随時)。</p> <p>2.本にマーキング(館所蔵を表示)</p> <p>3.持ち出し発生書架上に警告表示</p> <p>4.「防犯カメラ設置中」等の表示の更新・場所替え(年3~4回)</p> <p>5.職員巡回による抑止力強化(1日2回程度)</p>	<p>【検証】</p> <p>毎月の本の持ち出し状況を調査し、持ち出しの発生した書架上に警告表示を設置した。職員や委託業者による巡回や、防犯カメラ等の表示で色あせたものを取り替えるなどして、持ち出しの抑止力強化につなげた。</p> <p>【成果】</p> <p>5月に実施した蔵書点検の結果、不明本は51冊(前回R1.10実施)であり、目標の100冊を下回った。ただし、通常2月頃実施するところ、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館中に時期を早めて実施したため、大幅に減少したと考えられる。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>来年度からICシステムを導入する予定であり、盗難防止ゲートを出入口に設置することで、無断持出などの件数は減少すると考えられるため、その効果を今後検証していく。また、貸出処理のし忘れなど悪意のない場合も盗難防止ゲートで無断持出扱いとなるため、ゲート前の案内掲示など新たな対策を実施していく。</p>	<p>不明化傾向分析に基づく本の配置換え、本にマーキング(館所蔵を表示)</p> <p>職員等による閲覧室巡回</p> <p>未実施</p> <p>表示の総点検実施 集計と検証(毎月)</p> <p>黄ばみ等の点検、位置変更など</p> <table border="1"> <tr> <td>未実施</td> <td>51冊</td> <td>0冊</td> <td>0冊</td> <td>0冊</td> <td>3冊</td> <td>0冊</td> <td>3冊</td> <td>3冊</td> <td>3冊</td> <td>2冊</td> <td>2冊</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>												未実施	51冊	0冊	0冊	0冊	3冊	0冊	3冊	3冊	3冊	2冊	2冊														
						未実施	51冊	0冊	0冊	0冊	3冊	0冊	3冊	3冊	3冊	2冊	2冊																										

令和2年度 中央図書館 事業進捗状況管理表

(R2. 3/4~5/31 新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館)

資料3

事業名	課題	目標	実施項目	総括	年間スケジュール												備考
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
4	延滞対策事業	延滞本が多い	1.1日以上延滞者へ窓口で注意喚起。 2.延滞者に督促はがきを毎週郵送。 ・月次集計(3日~3年)時点での延滞冊数を700冊以内とする。 ・20日以上30日未満の延滞冊数を300冊以内とする。 3.20日以上延滞者へ毎週督促電話をする。 4.40日以上延滞者は貸出禁止措置後、次回貸出時に職員からの嚴重注意(マナーの説明、イエローカードを渡す)。 5.新規登録者に対する延滞注意喚起方法を導入する。	【検証】 昨年度の実績から更に延滞者数の減少を目標として、延滞者へ窓口での注意、督促はがきや督促電話を通年で実施した。 【成果】 新型コロナウイルス感染防止対策のための特別貸出を実施することにより、年度後半に延滞者数が増加したが、早めの督促電話を強化することにより減少傾向にある。 返却を忘れていた利用者に対し、早めに督促を行うことにより、延滞者の減少につながった。また、電話で口頭で督促することではがきと同様の効果があった。 図書館システムに「返却期限日お知らせメール」送信機能が新たに加わり、メールアドレス登録者への一斉PRメールの送信や、館内掲示、チラシ配布などで周知することにより、延滞者の減少につながった。 【今後の課題】 督促の頻度を多くすれば延滞者は減少するが、相応の業務量は発生するため、より効果的な方策を検討・選択していく。	延滞者に督促はがきを毎週郵送(通年)15日以上30日未満												
					該当なし												
					延滞者へ注意喚起カードを窓口で配布(通年)												
					該当なし												
					集計と検証(毎月)3日以上3年未満の合計												
					602冊	254冊	87冊	305冊	687冊	976冊	1,440冊	707冊	521冊	516冊	697冊		

図書館 I C システム機器導入

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、図書館 I C システム機器導入の準備作業を行った。令和 3 年度より運用を開始する。これにより、貸出及び返却がセルフ方式で可能となり、人と接する時間を短くし、カウンターでの感染リスクを軽減する。メリットは他にも手続きにかかる時間短縮、プライバシーの配慮、不明本対策、蔵書点検期間の短縮などがある。

1 導入及び作業内容

(1) 導入した I C 機器

自動貸出機・返却機、盗難防止ゲート、蔵書点検用の読み取り機、I C チップ読み取り機など

(2) 作業内容

所蔵資料（図書、雑誌、紙芝居、視聴覚資料等）に I C チップを貼付し、I C チップ対応の図書館システムに更新した。

(3) I C チップ貼付作業日

令和 2 年 1 0 月 2 0 日（火）から令和 3 年 2 月 1 2 日（金）まで

(4) I C チップ貼付件数

図書資料 237, 558 件

視聴覚資料 2, 907 件

電波遮断資料 72 件

※電波遮断資料：電波を遮断する素材を用いた資料で、I C チップのデータを読み込まない場合がある。

令和2年度 蔵書点検結果

1 期間

令和2年5月15日（金）から23日（水）まで
（職員週休日を除いた作業実施日数は8日間。）

※当初、令和3年2月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館中(R2/3/4～5/31)に変更し、点検範囲及び期間を減らして実施した。

2 作業内容

点検範囲は、開架のみで実施。

- (1) 開架約9万冊の書架整理（誤配置本の戻し、閉架へ移す本の選書、除籍する本の選書など）
- (2) 開架の全図書をペン型スキャナーで1冊ずつ読み取り、コンピュータで配架位置、貸借状況等を突合
- (3) 開架から閉架へ登録情報の変更入力、「閉架」スタンプの押印。処理した本を変更後の棚へ移動。
- (4) 閉架から除籍へ登録情報の変更入力、「除籍」のスタンプ押印。2階調整室倉庫へ移動。
- (5) その他
例年ボランティアの協力（昨年19名）をいただいているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため協力者なしで実施。

3 点検整理結果

(1) 不明資料

ア 新規不明冊数 51冊（昨年度 開架107冊）
イ 上記の金額換算 62,163円（昨年度176,643円）
ウ 新規不明率 0.06%（昨年度0.05%）

昨年度同様に不明本の多かった配架位置に盗難の注意喚起についての貼り紙や、雑誌表紙への図書館名記載を継続して対策した。開架のみ不明本の数が減少（△52%）した。

(2) 除籍

2,542冊（リサイクル図書として無料配布中）

4 その他

閉架については、臨時休館中に大がかりな並べ替えや連携事業用の本の移動など、作業時間のかかる業務をすすめることができた。

除籍本の配布（リサイクル図書）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策及びICシステム導入準備のため、毎年開催していたリサイクル市の代替として、リサイクル本配布を実施した。会場は2階ギャラリースペースとし、図書館で除籍した本や寄贈されたが、蔵書にはならなかった本を市民等に譲渡した。

期間：令和2年12月15日(火)から配布中、休館日除く

会場：中央図書館 2階ギャラリースペース

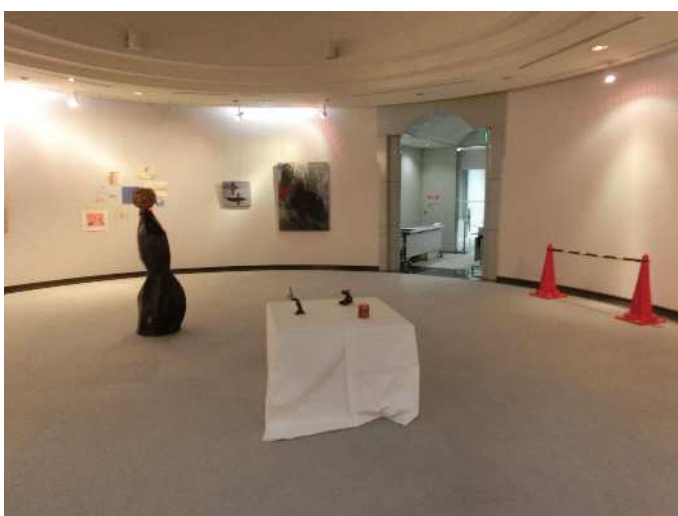
出本数：約8,500冊

【会場レイアウト】



令和 2 年度 BIBLIOTECA-ARTE 長久手市中央図書館現代美術展

- 1 開催期間
令和 2 年 1 2 月 2 日（水）から令和 2 年 1 2 月 1 6 日（水）まで
- 2 場所
長久手市中央図書館 2 階 ギャラリースペース
- 3 出品者
愛知県立芸術大学油画専攻の学生 9 名
- 4 記帳者数
1 6 3 名
- 5 出品者作品
「My daily」 はじめ 2 2 点 別添作品リストのとおり
- 6 写真



別添 現代美術展作品リスト

番号	タイトル	サイズ	素材	備考
1	My daily	縦840×横810mm	ミクストメディア	壁にピンで止める
2	したときどきまえにのちうしろ	縦1.303×横970mm	キャンバス、油彩	
3	ねざめのわろいひ	縦530×横455mm	キャンバス、油彩	
4	重なる世界Ⅰ	縦420×横420mm	アルミ板	
5	重なる世界Ⅱ	縦728×横728mm	アルミ板	
6	正義の占有者	縦1167×横910mm	キャンバス、油絵具、 アクリル絵具	
7	勇気のしるし	縦727×横606mm	キャンバス、油絵具、 アクリル絵具	
8	Protesting delusions 1 「始核」	縦80×横80×高さ100mm	木材、レジン樹脂、インク、ペンキ	
9	Protesting delusions 2 「不明な体の人々・知覚初期」	縦100×横100×高さ100mm 縦150×横150×高さ200mm	木材、紙粘土、ペンキ	
10	Protesting delusions 3 「不明な体の人々・知覚中期」	縦500×横500×高さ1600mm	木材、針金、和紙、ペンキ	
11	Home coming	縦450×横373mm	画用紙、ペン、水彩	
12	life cage	縦450×横373mm	画用紙、ペン、水彩	

13	規制、区画分け	380×380×720mm	木材、カラスプレー	立体作品
14	展示台	520×400×1200mm	ミクストメディア	立体作品
15	フェンス	1200×1820mm	ミクストメディア	平面だが厚みがある。 展示方法はワイヤー掛け
16	弾け鼠と牙犬牧場大脱走	縦455×横380mm	キャンバス、油彩	
17	馴初め	縦410×横318mm	キャンバス、油彩	
18	お別れ	縦606×横500mm	キャンバス、油彩	
19	違和感と夢	縦652×横530mm	綿布、アクリル、木炭	
20	違和感と粋	縦380×横455mm	綿布、アクリル、木炭	
21	ドローイング	縦220×横273mm	キャンバス、油絵具、木炭	
22	手(て)	652×530	麻布、アクリル	

長久手高校と中央図書館との連携事業

高校生に人気のある本とPOP展

- 1 目的 第2次長久手市子ども読書活動推進計画に基づき、中高生世代の読書環境づくりにより、読書活動の推進を図る。(計画書：基本目標2－重点施策1－取組2)
- 2 展示期間 令和2年8月29日(土)から令和2年10月25日(日)まで
(休館日を除く)
- 3 展示場所 長久手市中央図書館 1階 雑誌コーナー内 展示棚
- 4 内容 中央図書館と長久手高校との連携事業として、同校の図書委員、1、2年生による手作りの本のPOP展示と本、また、長久手高校でのランキング本や中央図書館で中高生に人気のある本を中央図書館で並べた。(合計76冊)
- 5 その他 東海テレビWEBニュースで紹介された。



読み聞かせボランティア養成講座

1 目的

中央図書館等で読み聞かせボランティアを行うために、「子どもに読み聞かせをする」技術を学び、ボランティアグループを立ち上げる。

2 事業概要

新型コロナウイルス拡大防止対応により延期となっていた令和元年度第5回目の講座を開催する。

(1) 名称 読み聞かせボランティア養成講座「フォローアップ勉強会」

(2) 講師 小幡章子氏

学術博士、元皇學館大学 教育学部 教育学科 助教

(3) 日時 令和3年3月16日(火) 10:00～12:00

(4) 内容 「読書会の勧めー物語があるから語りあえるー」

3 対象および参加者数

令和元年度読み聞かせボランティア養成講座の第5回を申し込んだ方
15名のうち10名参加

4 場所

長久手市中央図書館 2階 AV ルーム



子ども読書活動推進計画 令和2年度進捗状況・令和3年度目標値一覧

資料10

基本目標	重点施策	取組	新規取組	内容	指標	令和2年度 目標値	実績(R3.1月末)	達成率 (R3.1月末現在)	令和3年度 目標値
1 家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進	1 家庭や地域での子どもの読書活動の推進	1 乳幼児期からの読書活動の支援		乳幼児期に初めて本と出会うきっかけをつくるため、赤ちゃんと保護者が絵本を通して触れ合う「ブックスタート」などの事業を行います。	ブックスタートパック配付人数(年間)	100人	223人	223%	360人
		2 家庭読書の支援	○	家庭での読書の機会を増やすため、年齢に応じた本の情報を提供し、本に親しみやすくします。	年齢別ブックリスト作成	幼児向け作成(3歳、4歳)	作成中	95%	幼児向け作成(4歳、5歳)
		3 地域の読書活動の支援		ボランティアが地域での活動の際に必要な本をボランティア団体へ貸出し、地域の読書活動を支援します。	ボランティア団体への団体貸出(年間)	50冊	94冊	188%	50冊
	2 中央図書館(家庭・地域)における子どもの読書活動の推進	1 良質な図書の収集		専門的視点で司書が選定した良質な図書の収集を継続します。	中央図書館の小学生までの貸出冊数(年間)	50,000冊	74,450冊	149%	80,000冊
		2 声かけレファレンス	○	本をさがしている子ども(保護者含む)に司書から主体的に声をかけ、児童書のレファレンスサービスを強化します。	学校連携司書が中央図書館で実施するレファレンス件数(年間)	60件	57件	95%	30件
		3 中央図書館がより身近な存在となる事業の企画		子どもたちの関心やニーズに合わせた本のテーマ展示や飾り付けなどの雰囲気作りをすることで、本への興味を促し、中央図書館がより身近な存在となるように努めます。	テーマ展示回数(年間)	13回	18回	138%	15回
		4 図書ボランティアとの協働		読み聞かせや本の修理などの図書ボランティアを募集・育成・増員し、連携します。	ボランティア登録者数(年間)	85人	82人	96%	88人
		5 児童書の魅力を保護者へ伝えるための企画を実施		おはなし会の開催日数を増やし、図書館講座を始めとしたイベント等を企画します。	イベント等の実施回数(年間)	25回	0回	0%	10回
	3 児童館(地域)などにおける子どもの読書活動の推進	1 中央図書館からの図書貸出		中央図書館から児童館に団体貸出(児童館)をすることで、良質な本を提供し、読書のきっかけづくりをします。団体貸出未実施の長久手西児童館、長久手市青少年児童センターへの提供を開始します。	児童館への団体貸出(児童館)(全6館)	全6館の継続	実施済	100%	全6館の継続
		2 ボランティアによる読み聞かせ	○	読み聞かせに適した絵本を提供し、ボランティアによる児童館での読み聞かせをする体制を整えます。	児童館での読み聞かせをした館(全6館)	ボランティア育成の方法、しくみについて担当課と協議する。	協議実施	100%	コロナ対策をふまえたボランティア育成の方法、しくみについて担当課と協議する。
	4 保育園・幼稚園(地域)における子どもの読書活動の推進	1 保護者などに読書活動の大切さを周知	○	家庭における乳幼児期からの読み聞かせの意義を保護者を始めとする大人が理解し、親子で絵本に親しむため、園児対象の年齢別のブックリストを配置します。	園児対象のブックリスト配置(全19園)	1園で各1冊 幼児向け(3歳、4歳)リストを配布	作成中	95%	1園で各1冊 幼児向け(4歳、5歳)リストを配布
		2 読書と遊びを結びつけた取組	○	園での読み聞かせに、カルタなどのことば遊びの要素を入れた取り組みを充実させ、ふれ合いの中で楽しい体験ができるように支援します。また、中央図書館からの団体貸出によって、読み聞かせに適した絵本を増やします。	園職員へ選書のためのレファレンス実施(全19園)	3園	3園	100%	3園
	5 学校における子どもの読書活動の推進	1 学校連携司書の派遣		中央図書館から小中学校へ学校連携司書を派遣し、司書教諭と協働して学校図書館を活性化させ、利用を促します。学校連携司書の「1校につき1人の配置」を目指します。	学校連携司書の配置人数	1人増員の予算要求事務	R2年度予算要求済	100%	1人増員の予算要求事務
		2 学校連携司書による調べ学習の補助		学校連携司書が教職員と連携し、調べ学習のための本を中央図書館の蔵書から選定し提供することで、子どもの学習と教職員の授業を支援します。	年間の調べ学習用等の貸出冊数(小学校)	700冊	1,790冊	255%	900冊
					年間の調べ学習用等の貸出冊数(中学校)	40冊	163冊	407%	80冊
		3 学校連携司書による読書案内		学校連携司書が、読み聞かせやブックトークなどで、読書の楽しさを伝えます。また、子どもの読書相談に応じ、興味や関心のある本を紹介し、さらに、学校のボランティアと協力し、朝読書や読み聞かせを実施し、学校図書館の貸出冊数の増加を図ります。	年間の学校図書館の貸出冊数(小学校)	100,000冊	85,064冊	85%	100,000冊
					年間の学校図書館の貸出冊数(中学校)	6,000冊	5,227冊	87%	6,000冊
		4 学校連携司書による企画展示		学校連携司書が、学校図書館でテーマ展示などの企画展示をすることで、読書への興味を高めるきっかけづくりをします。	1校あたりの年間のテーマ展示回数(小学校) 1校あたりの年間のテーマ展示回数(中学校)	小学校4回 中学校2回	16回 3回	400% 150%	小学校6回 中学校3回

基本目標1 家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進の達成割合 R3.1月末現在 目標達成・・・ 92%

基本目標		重点施策		取組	新規取組	内容	指標	令和2年度 目標値	実績(R3.1月末)	達成率 (R3.1月末現在)	令和3年度 目標値
2 子どもの読書環境の整備・充実 (本の見やすさ、対象別に強化)	1	中央図書館のサービスの充実	1	子どもの発達段階に応じた読書環境づくり		対象年齢に応じた本の整備を図り、子どもが自ら本を選ぶ楽しさを実感できる棚や、くつろいだ雰囲気のある空間づくりをするため、児童書コーナー全体を定期的に点検、調整します。	中央図書館の児童書コーナーの点検・調整(年間)	4回	4回	100%	5回
			2	中高生向けの図書の充実、読書環境づくり		中高生向けの本を収集し、この世代用に特化した書棚をつくります。	中高生向け専用棚の図書貸出冊数(年間)	3,000冊	3,299冊	110%	3,400冊
			3	ホームページを通じた情報発信	○	ホームページで、本の紹介を始め、各種イベントの開催などの情報提供に努めます。また、子ども向けページの充実を図ります。	年齢別の推薦本紹介ページの開設	幼児向け作成(3歳、4歳)	作成中	95%	幼児向け作成(4歳、5歳)
			4	障がいのある子どもへのサービス	○	点字絵本やさわる絵本などを収集し、障がいを持つ子どもや保護者へ提供します。	障がい児向け図書の提供	120冊	127冊	106%	130冊
			5	中央図書館からやや離れた地区に住む子どもたちへの読書環境づくり		中央図書館からやや離れた地区に住む子どもの読書環境を向上させるために、団体貸出の拠点数を増やします。	中央図書館から団体貸出する拠点の数	13箇所	12か所	92%	13箇所
	2	児童館の読書環境の整備・充実	1	児童館利用者への本の紹介	○	児童館に来館する子どもから保護者までを対象に、おすすめ本のブックリストなどを作成し、情報提供します。	年齢別ブックリストの配置	幼児向け作成(3歳、4歳)	作成中	95%	幼児向け作成(4歳、5歳)
			2	児童館図書室の環境整備		児童館図書室の本の配置やレイアウトの調整、新規に購入する本や除籍本の選定に中央図書館が協力をします。また、司書が選定した本を中央図書館から団体貸出(児童館)をすることで、図書室の魅力を高めます。	本の配置などの点検・調整(年間)	全6館年1回の継続	実施済	100%	全6館年1回の継続
	3	保育園・幼稚園の読書環境の整備・充実	1	園内の図書コーナーの整備	○	園の図書コーナーを充実するため、年齢に応じたおすすめ本のブックリストの提供や読み聞かせに適した絵本や地域の民話などを中央図書館から紹介します。司書が図書コーナーづくりや絵本の選定に関するアドバイスをすることで、園の職員を支援します。	選書の意見交換と支援の年間実施園数(全7園)	3園	3園	100%	3園
			2	団体貸出登録		中央図書館の団体貸出カードを発行し、全ての園で活用するように周知し団体貸出を促します。	市内全ての園の団体登録数(全19園)	11園	10園	91%	11園
	4	学校図書館と中央図書館の連携体制の強化・充実	1	学校図書館の環境整備		学校図書館の本の配置やレイアウトの調整、本の選定に中央図書館が協力し、環境整備を図ることで、学校図書館が子どもにとって魅力的な居場所となるよう雰囲気づくりを支援、アドバイスします。	学校図書館へ週4回訪問する学校数(小学校6校) 学校図書館へ週4回訪問する学校数(中学校3校)	1人増員の予算要求事務	R2年度予算要求済	100%	1人増員の予算要求事務
			2	中央図書館資料の学校への提供		中央図書館から学級文庫用として団体貸出(学校)をする冊数を増やすことで、良質な本を子どもの身近な場所へ提供し、子どもの読書環境を充実させます。	団体貸出(学校)の冊数(年間)	7,450冊	7,660冊	103%	7,500冊
			3	学校連携司書による中央図書館の行事企画		学校連携司書が中央図書館で読み聞かせやブックトークなどのイベントを継続して開催することで、保護者を含めた幅広い年齢層へ読書の楽しさを伝えます。	中央図書館でのイベント参加者数(年間)	20人	0人	0%	90人
			4	学校図書館と中央図書館の情報共有	○	学校連携司書が学校現場での実践を活かし、中央図書館利用者へ向けにおすすめの本をホームページで紹介し、学校と中央図書館の司書が互いに本の情報を共有し、選書などに役立ちます。	学校連携司書が薦める本をホームページで紹介する冊数(年間)	12冊	12冊	100%	16冊

基本目標2 子どもの読書環境の整備・充実(本の見やすさ、対象別に強化)の達成割合 R3. 1月末現在 目標達成・・・ 90%

基本目標	重点施策	取組	新規取組	内容	指標	令和2年度 目標値	実績(R3.1月末)	達成率 (R3.1月末現在)	令和3年度 目標値
3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及 (広く周知し、興味を集める)	1 普及活動の充実	1 読書手帳の普及		読書履歴を残すことで、楽しみながら読書意欲を高めるため、読書手帳の普及に努めます。	読書手帳の窓口配布数(年間)	100枚	250枚	250%	200枚
					読書手帳の完了スタンプ数(年間)	70個	99個	141%	100個
		2 「子ども読書の日」などの普及		「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」などに合わせて読書に関するイベントや企画展示を開催し、参加者増加を目指します。	「子ども読書の日」いちにおはなし会参加者数(年間)	開催中止のため0人	0人	0%	40人
		3 保護者への周知	○	中央図書館を始めとした各施設での読書活動の取組事例を保護者へ広く周知し、子どもの読書の機会を増やします。	中央図書館のホームページで各施設で行われている読書活動を紹介	5件	5件	100%	6件
	2 各種情報の収集・提供	1 図書情報などの収集・提供	○	子どもの読書活動に関連するニュースを提供することで、子どもの読書活動を幅広く推進します。	閲覧室等へ随時、子ども読書に関わる情報を掲示する件数(年間)	3件	3件	100%	4件
					4 各施設で読み聞かせイベントなどの実施		中央図書館内外での読み聞かせイベントなどを通し、読書の大切さを広めるよう広報に努めます。	おはなし会などの読み聞かせイベント参加者数(年間)	700人
	3 優れた取組の紹介	1 図書ボランティアなどの活動を紹介	○	図書ボランティアなどの活動を紹介、奨励することで図書ボランティア活動の活性化、生きがいづくりにつなげます。	中央図書館のホームページで図書ボランティアの活動状況を掲載	4種の掲載を継続	実施済	100%	4種の掲載を継続

基本目標3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及(広く周知し、興味を集める。)の達成割合 R3. 1月末現在 目標達成・・・ 71%

令和2年度子ども読書活動推進計画 達成度合計 目標達成・・・ 88%

令和3年度事業概要

1 事業実施のための計画の位置づけ

(1) 第6次総合計画

基本目標2 子どもが元気に育つまち

政策3 子どもの健やかな成長を支える環境の整備

施策(1) 子どもが主体的に学ぶ機会の創出

・子ども読書活動推進事業

基本目標5 いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪

政策1 まちの資源を生かした市民同士の交流の促進

施策(1) 歴史の次世代への継承

・地域資料収集事業

(2) 教育振興基本計画

基本目標V 生涯を通じた学びの機会提供と支援の充実

基本施策(8) 子どもの読書活動の推進

基本施策(9) 魅力ある図書館づくり

(3) 子ども読書活動推進計画

基本目標I 家庭・地域・学校などにおける子どもの読書活動の推進

基本目標II 子どもの読書環境の整備・充実

基本目標III 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

2 事業概要

(1) 会議

ア 図書館運営協議会 年2回（5月、2月予定）

イ 学校司書職員連携会議 年1回（7月）

ウ めりーらいん会議（図書館連携による健康支援事業）年3回予定
連携館：愛知医科大学医学情報センター（主催）、瀬戸市立図書館、
尾張旭市立図書館、日進市立図書館、長久手市中央図書館

(2) 図書業務

ア 図書資料、地域資料、逐次刊行物、視聴覚資料等の収集、整理、保存、貸出

イ 蔵書管理

図書の選書、発注、受入、蔵書データの整備など

ウ 利用者サービス

児童・中高生・障がい者向けサービス、レファレンス（資料照会応談）、本

の予約・リクエストなど

エ 団体貸出

放課後子ども教室・児童クラブ・保育園・幼稚園などへの貸出

オ 館内企画展示

自館企画、他課とのコラボレーション企画による特設コーナー

(3) 資料収集計画

ア 図書 約 8,300 冊を収集予定

(ア) 中央図書館蔵書用

一般書 5,000 冊

児童書 2,500 冊

参考図書 100 冊

郷土資料 50 冊

紙芝居 30 組

中高生向図書 120 冊

計 7,800 冊

(イ) 学校連携及び児童館連携用

団体連携本（主に児童書） 500 冊

イ 視聴覚資料

DVD 15 点

C D 15 点

計 30 点

ウ 雑誌 107 誌

※平成 25 年度から雑誌スポンサー制度を導入

令和 3 年 2 月現在 11 事業者、22 誌

（令和 3 年 4 月より 9 事業者、15 誌の見込み）

エ 新聞 12 紙

(4) 子ども読書活動推進計画

第 2 次長久手市子ども読書活動推進計画

（対象年度：平成 30 年度から令和 4 年度まで）

【主要な取組】

ア ブックスタート事業

イ 中央図書館の読書環境づくり

ウ 児童館連携事業

エ 学校連携事業

オ 保育園・幼稚園の読書環境づくり

(5) 行事

ア	おはなし会（図書ボランティア等による）	再開時期未定
イ	児童書企画イベント	年1回
ウ	企画展示会（美術展）	年2回
エ	講座	年1回

(6) 図書ボランティアとの連携

- ア 絵本などの読み聞かせ
- イ 図書資料の修理
- ウ 図書資料の返却、書架整理

(7) 見学・職場体験・実習生

※相手方との調整の上、実施または延期・中止

ア	小学校図書館見学（3年生）	各校年1回（3年生）
イ	夏休み図書館見学ツアー	図書館にて2回（4年生対象）
ウ	中学生の職場体験	各校年1回（2年生）
エ	大学生司書課程図書館実習	年1回
オ	教職員研修	不定期

(8) 広報

- ア 利用案内、図書館カレンダー等の作成、配布
- イ 新刊リストの発行、ホームページへの掲載
- ウ 小学生向け（学年別）・幼児向け（3～4歳児）推薦書リストの発行
- エ 市及び図書館ホームページへの掲載
- オ 市広報紙への掲載

(9) ICシステム導入

ICシステム導入に伴い、令和3年度より自動貸出機・返却機、盗難防止ゲートの運用を開始する。

(10) 感染症対策事業

新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策を随時実施する。

(11) その他

ア	学級文庫入替（学校連携事業）	3月
イ	蔵書点検	2月